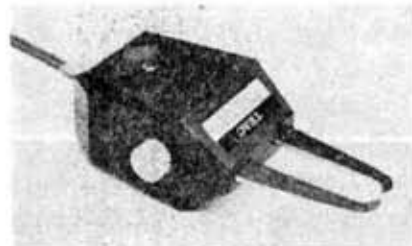


新製品紹介

パーツ

TEACの消磁器

“E-1”は、テレコの他の部分に悪影響を与えず、ヘッドの完全な消磁を行なうもので、プロ用から一般家庭用のあらゆるテレコに使える。特長 4～5回ヘッドの前を移動させるだけで帯磁を除くことができる。消磁器が働



いているあいだはブザー音を発生し、動作中であることを知らせる。規格電圧：AC100～117V 50～60%。消費電力：100V60%で約4W、117V60%で約6W。 定価 2,500円

(ディアック株式会社
東京都武蔵野市中町 3～7～3)

フレックスのTV用整合器

“FMT-73M”は、3C-2V同軸ケーブルに適合するカラー・テレビ用整合器で、はんだレスのコネクタを使用し

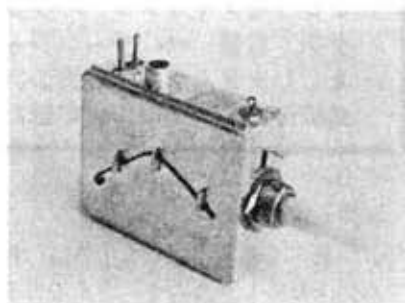


ているので、取り付けが簡単にでき、ゴーストやノイズを完全に防止できる。また一般のテレビ受像機にも使える。規格 インピーダンス：75Ω～300Ω。挿入損失：0.6dB。V.S.W.R：1.3。同軸ケーブル：3C-2V。価格 650円

(フレックス電子商会
東京都千代田区神田司町 2～11)

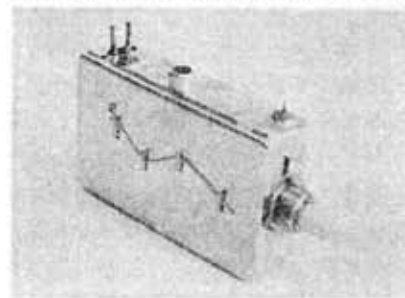
ミツミのUHFTVチューナ2種

“UK-A31”は、アメリカ・チャンネル用に開発したマイナス接地形地絡入発振回路方式のUHFテレビ・チューナ。



規格 外形寸法：51×63.5×28.2mm。使用TR：2SC288A。ダイオード：SD-82Aまたは1S750。使用電圧：11V。消費電流：10mA以下。受信周波数：470～890Mc。利得：-10dB以上。利得差：6dB以内。雑音指数：14dB以下。イメージ比：30dB以上。IF妨害比：60dB以上。定在波比：3以下。不要放射：30m測定法にてFCC規格にもとずき500μV/m以下とする。

“UM-E12”は、ヨーロッパ・チャンネルに開発された高周波1段増幅形のUHFテレビ・チューナ。規格 外形寸法：51×82×28.2mm。使用TR：2SC288A、2SA422。ダイオード：SD-82Aまたは1S750。使用電圧：11V。



消費電流：12mA以下。受信周波数：470～870Mc。利得：0dB以下。利得差：10dB以内。雑音指数：11dB以下。イメージ比：30dB以上。IF妨害比：55dB以上。定在波比：4以下。不要放射：10m測定法にてFTZ規格にもとずき450μV/m以下とする。

ミツミのポリバリコン

“PVC-23R30”は、AM2連、FM3



連の5連等容量多バンド・ポリバリコン。規格 外形寸法：30×30×30mm。最大可変容量：AM=335pF、FM=20pF。最小容量：AM=6±2pF、FM=3±1.5pF。回転トルク：50～500gcm。絶縁抵抗：DC100Vにて100MΩ以上。耐電圧：DC100V1分間印加して異常なし。Q：AM側=10Mc、50pFにおいて測定し500以上、FM側=100Mc、10pFにおいて測定し150以上。

(ミツミ電機株式会社
東京都北多摩郡狛江町)

測定器

シバデンのプリスケーラ

“AD-731”は、カウンタの最高計数周波数を拡大するためのアダプタで、従来の10～15Mcカウンタに本機を併用することにより、本体カウンタの周波数を250Mcまで拡大することができる。規格 適合カウンタ：F-165形(5



%～50Mc)シリーズ。周波数範囲：10～250Mc。入力電圧範囲：50mV～1V r.m.s。入力インピーダンス：約50Ω。精度：本体カウンタの精度。電源：本体カウンタより供給。寸法と重量：180×140×285mm。約3.5kg。

(芝電気株式会社
東京都千代田区内幸町 2～20)

トリオの真空管電圧計

“VF-103”は、交流用真空管電圧電力計で、200μVの微小電圧から300Vまでの電圧測定が可能で、かつ安定に使用できる平均値指示実効値目盛の真空管電圧計と、100μWから6Wまでの電力測定が可能な負荷抵抗器と特殊な減衰器により構成されている。規格

新製品紹介

〔電圧計〕測定範囲：0～10～300mV および1～300V。電圧比測定範囲：-60～0, 10～50dB。測定周波数範囲：20 μ S～100kc。入力抵抗：1M Ω 。入力容量：45pF以下。指示精度：定格値の $\pm 3\%$ 。〔電力計〕電力測定範囲：0～5～500mW および5W。電力比測定範囲 (dB)：-30～+10dB。測定周波数範囲



：20 μ S～100kc。入力抵抗：4～16 Ω および外部。指示精度：定格値の $\pm 10\%$ 。〔増幅器〕利得：約46dB。出力電圧：無負荷にて1.5V以上。出力抵抗：約600 Ω 。周波数特性：20 μ S～150kc ± 1.5 dB以内。30 μ S～50kc ± 1 dB以内。〔電源部〕入力電圧：100V 50～60%。消費電力：20VA。寸法と重量：155 \times 190 \times 215mm, 3.7kg

現金正価 25,400円

トリオ株式会社
(東京都渋谷区渋谷 1～6～5)

スピーカー

パイオニアのSPシステム

“CS-100”は、11個のLC素子を組み合わせ合わせたネットワーク (12dB/oct), スイッチ切り換え式を採用したレベル



・コントロールを採用した4スピーカー3ウェイのSPシステム。規格形式：完全密閉形。使用SP：ウーファ38cm, スコーカ 16cm \times 2, トゥイータホーン形。インピーダンス：16 Ω 。再生周波数帯域：20 μ S～20kc。出力音圧レベル：103dB/W。最大入力：60W。外形寸法：960 \times 600 \times 445mm。実効容積：17,000cm 3 。重量：63kg。

現金正価 89,000円

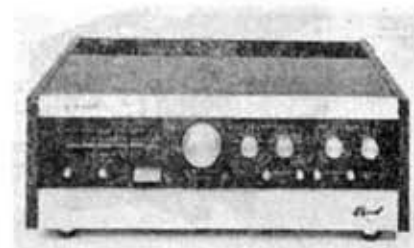
パイオニア株式会社
(東京都大田区大森西4～15～5)

アンプ

トリオのプリメイン・アンプ

“サブリーム1”は、ステレオ・プリアンプと6台のメイン・アンプ、それに周波数分割用のフィルタが1つのケースに内蔵されたブリッドステート・マルチ・チャンネル・ステレオ・プリメイン・アンプ。特長〔メイン・アンプおよびフィルタ部〕オール・シリコンTRで構成されたOTL方式で、中出力以下では低・中・高音アンプともひずみは0.05%以下。フィルタはNF形で12dB/octの減衰特性をもち、クロスオーバー周波数は低・中音が400 μ S, 800

μ S, 中・高音部が2.5kc, 5kcをそれぞれスイッチで切り換えられる。〔ステレオ・プリアンプ部〕TCはNF形とCR形の長所をとり入れ、低音はターンオーバー、ローカット周波数可変形とし、高音は10kcにおける増減をdBで表

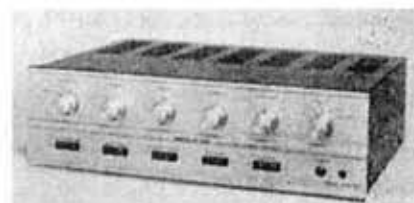


示。低入力端子を完備したイコライザ回路。偏差 ± 0.2 dBのイコライザ特性。

トリオ株式会社
(東京都渋谷区渋谷 1～6～5)

日本サウンドのプリメイン

“SAQ-501”は、UL形TRを使用したステレオ・プリメイン・アンプ。規格 回路方式：低ひずみUL形TR使用 SEPP OTL。ドライバ：特殊巻き線形入力トランス使用。出力：1%ひずみ率25W \times 2(8 Ω)。周波数特性：



20 μ S～20kc ± 1 dB。入力感度：MAG, TAPE-HD 3mV, TUN, AUX 120mV。イコライザ：MAG RIAA, TAPE NAB. S/N：MAG 50dB以上, AUX 70dB以上。出力端子：4～16 Ω 。使用TR：2SB407 \times 4 18石+1シリコン・ダイオード (ブリッジ)。

現金正価 24,700円

日本サウンド株式会社
(東京都板橋区下赤塚 556)

いつも新型でお聞き下さい!! あなたのアンプを
新しいソリッドステートアンプにしませんか

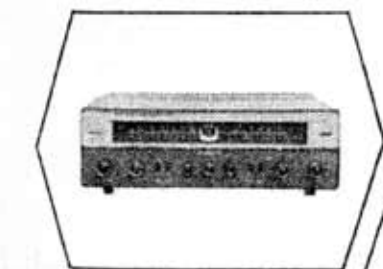
東京中古センター

東京都千代田区外神田 1～15～16
秋葉原電化ビル2階 TEL (253) 6522

大和無線電機(株)内

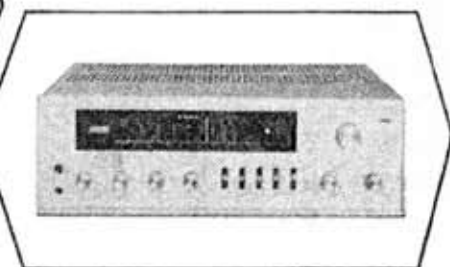
大阪中古センター

大阪市浪速区日本橋東4～3 TEL (631) 3459



(古いアンプをお引取り致します)

- ぜひ一度おでかけ下さい。
- アンプ等の一定期間借出します。





現在、日本でもカー・ステレオが流行しはじめているが、このステレオ、アメリカでは大変普及している。車内の前と後に2ウェイ・スピーカーを取付けているので音響効果も良好。また小型化した製品にしては非常に性能もよい。アメリカ大陸を縦断する広いハイウェイを飛ばしながら、ステレオ演奏を聴いていると、狭い車内も、まるで大型車かのような錯覚に落ち入り、気分爽快である。さすがは資本主義経済の大本山だけはあると感嘆することしきり。

こうした現象を、アメリカのある友人は「単に人間性を取戻すための手段である」といつていたが、私のみた限りではそんなに単純なものではない。事実、コンパクト化し、性能的にも称讃にあたいするようなステレオを実用化しているが、その一つをして家具の実用性とステレオに対する嗜好性を融合させ実現させたものにリビング・チェアがある。

マサチューセッツ州に住むI氏は定評ある“音キチ”である。自分の部屋と奥さんの部屋をつなげて十萬ドルもの金をかけリビングルームをつくり「レコード芸術」を楽しむというご仁である。

ある日、彼の家に招待されたの

で夜遅くはなつたが訪問した。いくとすぐにリビングルームに通され「その椅子に座れ」と指さした。みると大きな椅子が一つ、部屋の真中におかれてある、座ると耳もとから心よい音楽が流れはじめた。私はてっきりBGM装置からきこえてくるのではないかと思っていたが――。

I氏夫妻と話していると音楽が止んだ。彼は「どんな曲が好きか」ときくのでバッハの曲をリクエストした。備えつけのレコード棚から一枚の盤を取出すとツカツカと私の傍に米てチェア・サイドを開けた。そこにはモジュールされたステレオセット(8トラックのテープをかけることも出来る)が組込まれてあった。2ウェイのスピーカーシステムで背モタレに特殊な設計のもとに保護され装置されていたのである。

アメリカ人は音質には繊細さが欠けるといわれているが、それは昔のことである。数年前のサタデー・イヴニング・ポスト紙に「果してステレオ・セットは伸びるか」という見出しでその将来性を懸念していたが、これなどは経済産業機構としてより、人間のもつ性質から考えればわかるはずなのだが。科学産業の世界的に指導的立場にあるこの国の子供への科

学教育は盛んである。中には小学校五、六年でハイファイ装置をつくりあげるのもいるという。これは個人の先天性に基づくものではあるが、こういった教育から増長させられたものである。したがって、最近のアメリカ・オーディオ界では機械の優秀性=優れた音質としてみられ、「音に対するデリカシーがない」といわれた昔を完全にくつがえしてしまった。

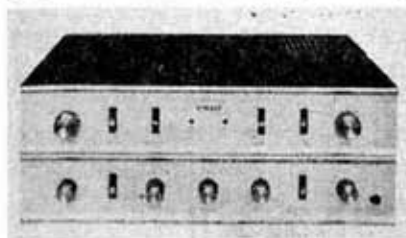
輸入する場合でも「安いから」買うのではなく「良いから」買うというのが現在アメリカの本質であり、アメリカ人でもある。

マイクロ精機ではピックアップの専門メーカーとして、国内のみならず海外でも音響にウルサイ国(英国・西ドイツなど)アメリカにも大好評を得ております。

(提供 マイクロ精機株式会社)

トリオのステレオ プリメイン・アンプ

“TW-80D”は、メサ形シリコンTRの採用と、NF形トーン・コントロールを採用したソリッドステート・ステレオ・プリメイン・アンプ。規格使用TR：21石+6ダイオード。実効出力：35W+35W。周波数特性：15%



~50kc。ひずり率：0.8%以下(出力35W/35W 1kc)。入力端子および利得：MAG-1,2 2.7mV, TAPE HD 2.7mV, TUN, AUX, TAPE-PLAY 150mV。イコライザ：RIAA, NAB。電源：AC100V 50~60%。寸法と重量：388×150×310mm, 9.5kg。

現金正価 45,000円

トリオ株式会社
(東京都渋谷区渋谷 1~6~5)

日本サウンドのAM/FMチューナ

“ST-211X”は、つぎの規格をもったAM/FMステレオ・チューナ。規格



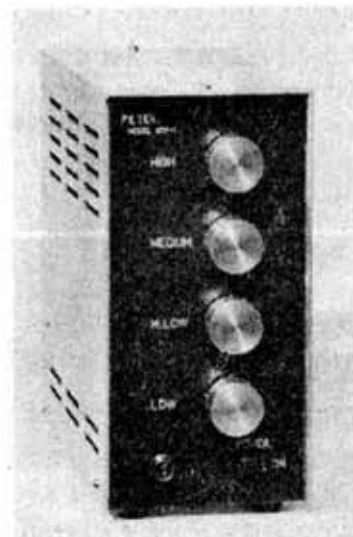
使用球：6AQ8×2, 6BA6×3, 6AU×2, 6BE6, 12AU7×3, 12AT7, 6X4, 6RE13, SD46×9。受信周波数：535~1605kc, 76~90Mc。感度：AM 20μV (S/N20dB), FM 18μV (S/N20dB)。ノイズ・フィルタ：FM-AFC スイッチ

付。FMステレオ・インジケータ方式。
現金正価 27,100円

(日本サウンド株式会社)
(東京都板橋区下赤塚 556)

神田オーディオ・センターの チャンネル・フィルタ

“NTF-1”は、ステレオ・マルチ・スピーカー・システムが手軽に実現できる分割増幅器。TR式アンプ、真空管アンプともそのまま使用できる。構成はプラグイン式負帰還形分割回路ユニットと、電源ならびに入出力増幅器、



レベル調整用VR、入出力端子等をケースに収めたもので、ユニットを差し替えるだけで容易に分割周波数の変更ができるようになっている。寸法は90×180×190mm。

正価(ユニット別) 20,600円

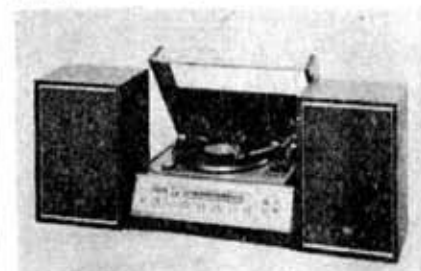
神田オーディオセンター
(東京都千代田区外神田1~16~1)

ラジオ

シャープのステレオ装置

“GS-5500”は、つぎの規格をもった

ブックシェルフ形ステレオ装置。規格[アンプ部]電源：100V 50~60%。回路方式：オールTR式AM/FM-MPX 24石17ダイオード。AFC, AVC回路付。受信周波数：530~1605kc, 76~90Mc。出力：12W+12W。寸法：232×464×360mm。(SP部)中低音用16cm, 高音用 ホーン形。インピーダンス：

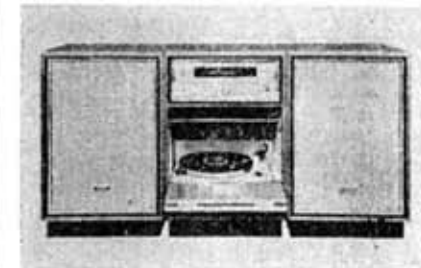


8Ω。寸法：390×255×220mm。(プレーア部)形式：オートリターン装置付4スピード。モータ：リンクロナス。ターンテーブル：28cm。PU：セラミック形。現金正価 64,800円

早川電機株式会社
(大阪市阿倍野区長池町22~22)

オンキョーのステレオ装置

“ST-7600”は、AM FM-MPX 付きのステレオ装置。規格 回路方式：9球4石11ダイオード。受信周波数：76~90Mc, 530~1605kc。感度：極微



電界級。出力：12W+12W。電源：AC 90~110V 50~60%。スピーカー：2ウェイ4スピーカー方式。低音20cm×2, 高音 ホーン形×2。モータ：リンクロナス形。3スピード。ターンテーブル：30cm。PU：MM形スタチック・バラ



イトーカラー研究所

■東京都練馬区下石神井1-869 TEL.(997)4696 ■

●2時間で完成!

■2球円板方式
●PAT. NO. 587090
299690
314804

35-35428
35-60041

CTV-220型

新発売 ¥11,000

セミキット ¥18,000

完成品(送料別)

■カタログ ¥50円 ■

●参考記事

電波技術 39.10

テレビ技術 40.1



株式会社永井製作所
東京都練馬区内泊江町
TEL (416) 3161-4

シス形パイプ・アーム、針圧：3~4.5
g. 現金正価 85,000円

大阪音響株式会社
(大阪市旭区大宮西之町5~32)

その他

日立の埋込形インターホン

“TSU-104”は、屋外用として安全な防滴構造を採用した埋込形インターホン。規格 通話方式：単信

(プレストーク)方式、スピーカ：3.5cm パーマネント形、通話距離：200m(ビニル線0.18mm 20本より使用)、寸法と重量：70×114×34mm、11g。

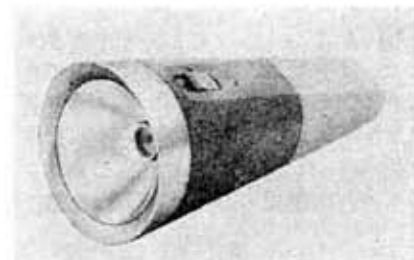


現金正価 1,600円

株式会社 日立製作所
(東京都千代田区大手町2~8)

クラウンのフラッシュ・ライト

“RL-180A”は、家庭用コンセントから簡単に充電でき、ニッケル・カドミウム蓄電池を内蔵したフラッシュ・ライト。規格 電圧：2.5V(ニッケルカドミウム蓄電池×2)、豆球：2.5V



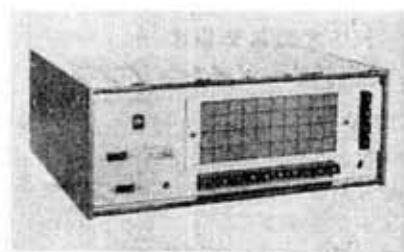
(ポリライト専用電球)、消費電流：160~180mA、寸法：133mm、140g、

現金正価 1,200円

クラウン株式会社
(東京都台東区上野3~17~4)

ナショナルの誘導式個別呼出装置

“ミニコール”は、ループ・アンテナの誘導磁界を利用した、誘導式個別呼出装置で、ループ・アンテナを張っ



てある建物内の、どこにいるかわからない特定の人を確実に呼び出し、すばやく指示を与えることができる装置。規格〔親機〕呼出数：40人、搬送周波数：100kc、変調方式：AM変調、電源：AC 100V 60W。〔子機〕受信感度：



70~120dB、呼出信号周波数：400%~2kcの1周波選択、電源：UM-5×2。

松下通信工業株式会社
(横浜市港北区綱島町 880)

(145ページよりつづく)

圧の変動のため、直結部の状態が変わってしまう。

4)もともと直結部の調整が不完全で、アンプに大きなひずみを生じているときは、それだけでご来示のような現象を生ずる。

などで、他にも局部発振や電圧電流値の変動のため動作状態が狂ってしまうことも考えられます。

1)のケースですが、一般に低 f_p の3極出力管のグリッド入力抵抗は意外に低く、出力管を抜いたとき測定したドライブ電圧は十分高いのに、出力管を接続するとトタンにひずんだり、出力電圧が低下したり、あるいは無ひずみ最大電圧が著しく低下したりすることは、普通の標準PPアンプでも経験します。今のばあい6R-A2を並列に使用していますが、そのときのドライブ管としては12BHA7-Aあるいはそれ以上のパワー管を、なるべく低いプレート抵抗で使用するのがよろしい。

2)の場合ですが、たとえば第4図(A)のばあいは、テストの内部抵抗を通じて P_1 点に打ち消し電圧が加わるので、6AQ8の動作状態が狂って出力電圧が低下することもあります。

P_1 点のインピーダンスはかなり高いので、 P_1O 点間を低抵抗のテストで供給することは危険だと考えねばなりません。テストの内部抵抗が $2k\Omega/V$ ていどのものでは半波整流のものがあるので、第4図(B)のような測定をすると、さらに問題が複雑になります。もともとテストのACレンジで交流、直流重畳回路の電圧を測定することはできないので、この種の測定に当っては念のためCを直列に入れて、直流分を切断してやらねばなりません。

以上を要するに、動作中のアンプのドライブ電圧をどうしても測定したいばあいは、前にも述べたとおり出力電圧や出力波形を監視しながら、入力インピーダンスの高い増幅形バルボル(P形バルボルは不可)を使用するぐらいの注意が必要なのです。

3),4)の点についても警戒が必要で、とくに直結部の調整が不完全で、初段管が著しくひずんでいるばあい、あるいは位相反転段の動作に余裕がないばあいは、ご来示のような不平衡は当然生ずるものと考えられます。

第2のご質問ですが、一般にパワーアンプでは入力が増大とともに電圧増幅度が多少低下します。したがって、

増幅度や負帰還量の表示も一定の出力レベルでやらぬと混乱を生じます。

ただご来示のデータでは、大出力時の増幅度の低下がはなはだしすぎるようです。入力電圧の増大にしたがって、このようにはなはだしい増幅度低下を生ずるということは、つまりアンプが極端にひずんでいる事を意味します。おそらくこの状態で出力電圧を観察すると、波頭が丸くつぶれているが、おそらくもっと極端なクリップ波形になっていましょう。アンプがこのような非直線的な領域で動作しているばあいは、むろん打ち消しの作用も不十分で、ドライブ電圧が不平衡になるのも当然です。

図から6AQ8の共通カソード電圧が極端に高すぎるようです。初段管6EJ7のB電源回路に可変抵抗器(250K Ω 内外)を挿入して、6AQ8の共通カソード電圧が100V以下になるように調整すれば、あるいはひずみの少ない動作状態が見つかるかも知れません。いずれにしても、全く新規のタマを使用してこの種の直結回路の調整を行なうばあいは、最少限オシロくらいは用意してかからぬと、まず成功は見込みないと考えられます。(武末数馬)